

反日的な歴史捏造と多数の印象操作

台湾の反日捏造史観や中国人の捏造歴史観と軌を一にする内容

台湾研究フォーラム会長

ながやま ひでき
永山 英樹

日本放送協会（以下、NHK）が昨年四月五日夜に放映した、NHKスペシャル「シリーズJAPANデビュー」の第一回「アジアの『一等国』」（以下、番組）は反日的な歴史捏造、印象操作が多数見られ、これが視聴者、社会に及ぼす悪影響を座視し得ず、以下のように意見を述べる。

「匪徒刑罰令」の解説は不公正

番組は「後藤は、台湾のみに適用される法律、特別法を駆使してゆきます。まず手を着けたのは、住民の抵抗運動を抑えることでした。後藤が考え出した条令、匪徒刑罰令^{ひとけいばつれい}です。日本内地ではあり得ない厳しいものでした。略奪、殺傷のみならず、建物や標識、田畑を破壊した者は死刑。未遂であっても同罪とする。総督府警察が、匪徒、犯罪者と看做せば、たとえ未遂でも死刑に処せられました」と解説し、日本政府

の台湾人殺害の残酷性を強調したが、匪徒刑罰令が「内地ではあり得ない」ほど寛大な条令である事実を隠蔽したのは公正な報道姿勢とは言えない。

そもそもこの条例は、当時各地に蟠踞^{ばんきょ}し、殺戮、破壊行為を繰り返してきた武装盗賊集団対策として「討伐」より「招降」を優先させる寛大な政府方針を反映させたものであり、事実、同令の第六条には「本令の罪を犯したる者官に自首したるときは情状に依り其刑^{そく}を軽減し又は全免す」と規定されている。

そして、この条例によって台湾島内の治安は確立され、民生が安定を得たと言うのが事実だが、番組の報道は、条例を台湾人殺戮^{さつぐ}政策の象徴として強調する台湾の反日捏造史観と軌を一にするものであり、NHKは訂正を行わなければならない。

根拠不明の「神社参拝強制」

番組は「皇民化政策は、台湾人の心の中にまで踏み込んでゆきます。台湾全島に日本の神社を次々に建て、人々に参拝を強制します」と解説した。

そこでその真偽を疑った中山成彬・衆議院議員（元文部科学大臣、「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」会長）は四月二十八日、福地茂雄NHK会長へ宛てた質問状で、「台湾で、神社参拝を強制して、道教を禁止したと報道したが、それを裏付ける資料があったか否か」と問い質したところ、五月十一日に番組の河野伸洋エグゼクティブ・プロデューサーが回答を寄せ、「人びとに参拝を強制したことを示す資料は、『台湾時報』があります」と説明した。

しかし私はこの説明を誤りだと認識する。戦後になり台湾人に対する「神社参拝の強制」の有無が論者の間で争われたと記憶するが、私がこれまであの時代を経験した複数台湾の人々に確認したところ、みな一様に「強制はなかった」と答えているからだ。

そこで私は五月二十三日、河野氏に「その資料は『台湾時報』の何年何月号にあるのか」と文書で質問した。ところがそれに対する「『プロジェクトJAPAN』担当」名義の六月八日付の回答文書には「NHKとしては、神社参拝を強制

した資料として台湾時報があるというようなことを、公開していません」「公開していない情報をもとにしたご質問に、お答えを出すことはできません」とあった。

NHKは、この番組で視聴者に対して与えた歴史事実の情報に関し、それを疑問視する視聴者には、「公開していない情報」を以って歴史情報の正確さを説明してきたが、このケースに限って「答えを出すことができない」とするのは、この情報の正確さを示すことができないからであり、報道責任の放棄、歴史捏造の隠蔽としか考えられない。

「改姓名強制」は明らかな捏造

さらに台湾人に対する「神社参拝の強制」とともに、真偽が争われてきたのが「改姓名かいせいめいの強制」だが、番組は「皇民化とは天皇中心の国家主義のこと、台湾人を強制的に日本人へと変える政策でした」とした上で、「皇民化政策は人の名前の変更にまで及びました。同じ時期、朝鮮半島では新たに氏を創る『創氏改名』が行われ、台湾では『改姓名』が始まりました」と解説した。

そこで中山氏は前述の質問状で「台湾で実施された『改正名』が、強制的に実施されたように報道したが、強制を示す資料があったか否か」と質問したところ、河野氏は「台湾の『改姓名』は許可制でした。番組では『強制的に実施』した

とはコメントしていません」と回答している。

河野氏自身が認めているように、改姓名は強制ではなく許可制だった。

従って、番組が「強制的に日本人へと変える政策」であるところの「皇民化政策」が「人の名前の変更にまで及びました」と解説したのは、明らかな歴史捏造であり、訂正が必要だ。

「国民党との衝突」の解説は不正確

番組は「戦後、台湾を統治したのは蒋介石率いる中国国民党でした。日本兵として中国と戦った台湾人は、かつての敵の下で暮らすことになります。台湾人は、日本人の奴隷になったと非難され、国民党と衝突、多くの人々が処刑されてゆきました」とナレーションした。

「国民党と衝突」と言うのは、昭和二十二年に発生した二・二八事件だが、これにより少なくとも約三万人もの台湾人が無差別虐殺などで犠牲になったと見られている。だが「台湾人は、日本人の奴隷になったと非難され、国民党と衝突、多くの人々が処刑されて行きました」とするのは、正確ではない。

よく知られるとおり、「衝突」の原因は国民党の台湾支配によって生活を圧迫されるなどした民衆の不満であり、「日

本人の奴隷になったと非難され」ただだけで起こったものでは決してない。

このような番組解説からは、「台湾人が日本教育を受けたことを中国人に非難され、不法にも暴動を起こし、法の裁きを受けた」「悲劇は台湾人を奴隷にした日本が生んだ」との印象を受けるが、これは事件発生の責任を一方的に台湾人に押し付ける中国人の捏造歴史観と合致するとも思われ、訂正を要する。

「日本統治批判」は虚偽の印象操作

番組ではフランスの歴史学者だというパスカル・ブランシヤールを登場させ、「私たちは、他者と共有できる歴史を探り当てなければなりません。他者の歴史を知ることが、自身を知ることでもあります」「世界に目を向け、なぜ世界の人々は日本をこのように見るのか、理解しなければならなのです」と語らせる。

そしてそれを受け、「親日的とも言われる台湾に、今も残る日本統治の深い傷。それは今後、アジアの中で生きていく日本が、分かち合わなければならない現実です」とのナレーションが流れる。

ここで言う「歴史」とは明らかに「日本統治」の「歴史」を指す。パスカル・ブランシヤールはその「歴史」に関し、

「なぜ世界の人々は日本をこのように見るのか」と発言するが、「このように見る」と言うのは、その直前に映し出された元日本軍人が示した日本への批判的見方を含むのは明らかだ。

だが元日本軍人がそこで示した見方は、「みなしご」になって捨てられたみたいですよ。人を馬鹿にしているんだ、日本は」だった。つまりこの人物が批判するのは、「台湾統治」を止めて台湾人を中華民国支配下に置き、「みなしご」のようにした戦後の日本なのだ。

しかし番組は上述のようにこの発言を、「日本統治」への批判であるかのような虚偽の印象操作を敢えて行った。

それが事実であることはNHKが番組放送前に放映した番組予告の映像で明らかだ。

そこには、この人物に話をさせた番組ディレクターの濱崎憲一氏が出演し、「人を馬鹿にしているんだ、日本は」の発言を「日本統治時代の、日本の支配に対する批判」だと指摘している。

「親日的とも言われる台湾に、今も残る日本統治の深い傷」とのナレーションは、番組を最後に総括するものだったが、このような総括をしたいがために発言の真意を歪めて報じた責任を、NHKはその人物本人と視聴者に対して負わなければならない。

DVD『台湾人生』

台湾で最も波瀾に満ちた時代を生きた日本語世代が語る、もうひとつの歴史とは一。全国各地で大きな反響を巻き起こし、ロングランヒットとなった傑作ドキュメンタリー、待望のDVD化！ NHK「JAPANデビュー」では無視された元日本人の心の叫びに耳を傾けてください。



■日本李登輝友の会だけの特典！

定価 4,200 円→会員頒布価格：3,150 円（25%引！）一般頒布価格：3,360 円（20%引！）

送料も 1 枚 160 円、5 枚セットですと無料となり、大変お得です。

さらに当会だけの特典として、酒井充子監督からのメッセージカードもついてきます！

■頒布価格 会員価格：3,150 円 一般価格：3,360 円 【送料 1 枚：160 円 5 枚セット：無料】

■申込方法 1) ご氏名（会員・一般）2) ご住所、3) 電話、4) 注文数、5) 振込み方法（郵便局・銀行）を明記の上、郵送・FAX またはメールで
申込フォームも受付可：http://www.ritouki.jp/cgi-bin/enquete/form0064.reg

■申込先 日本李登輝友の会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-36-9 西ビル 2 A

TEL：03-3868-2111 FAX：03-3868-2101 E-mail：info@ritouki.jp

■お支払い 代金後払い 商品とともに請求書と郵便払込取扱票をお送りします。